

小唄 吉三節分

安政七年正月（1860年）市村座 初演

作詞 河竹黙阿弥 作曲 吉田草紙庵

月も朧おぼろに白魚しらうおの

篝かがりも霞かすむ春の夜に

冷つめてえ風も微醉ほろよいいに

心持こころもちよくうかうかと

浮うかれ鳥からすのただ一羽

埒ねぐらへ帰る川端で

棹さおの雫しずくか濡れ手あわで粟

思いがけなく手いに入る百両

「御厄おんやくはら被やくおいましょう 厄落とし」

ウムほんに今夜は節分せつぶんか

西の海より川の中

落ちた夜鷹よたかは厄落とし

豆まめだくさんに一文ぜにの銭と違ちがって金包かねづつみ

コイツア春えんぎから縁起えんぎがいいわえ